

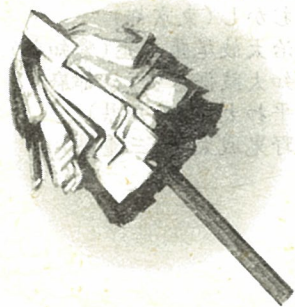


季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第一一三号〜

処暑 八月二三日

子ども木遣り



遷宮行事の御木曳や御白石持ちに欠かせないのが、木遣り唄。皆で力を合わせる時、まずは木遣り唄で皆の気持ちも合わせます。

先日の宇治神社の会式では、子どもたちが木遣りを唄いました。小さな采を振りながら、堂々たる唄いっぷり。進修小学校四年生から六年生の子どもたちが担当しました。

その練習は夏休みの夜、行なわれていました。夜の七時半に猿田彦神社へ行くと、小さな采を持った子どもたちが集まっています。宇治奉曳団の木遣り長の山中さんの指導のもと、練習が始まりました。本番さながらに、進行係が、

「木遣り一本」と声をかけると、

「めでた、めでたーでーたーの、ヤーレ」と二人が声を合わせて唄います。すると、ほかの子どもたちが、

「ヤットコセー ヨーイヤナ」と合いの手を入れます。唄が終わると、ほら貝が鳴ります。

木遣り唄も采もほら貝も子ども用ですが、大人たちと同じ要領で行います。今年から始めた四年生の姿もありますが、歌詞を間違える子どもはいません。

少し離れたところには、小さな子どもたちもいました。親と一緒に、兄や姉の練習を見ているのでした。

山中さんが「去年までのエースだよ」と紹介された中学生の女の子が、皆の前で唄いました。よく通る声で大人顔負けの上手さです。あとで「緊張しないの」と聞くと、「好きだから」とはにかみました。中学では合唱部に入部し、腹筋運動をするなど運動部並みに鍛えているそうです。これなら、宇治は木遣りは伝わっていく、子ども木遣りの姿に安堵しました。

文 千種清美



伊勢内宮前